

平成17年度第1回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

日時 平成17年8月18日(木) 10:00~12:00

会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

出席者氏名

・高田 實 委員 ・四宮 茂樹 委員
・佐藤 ハツエ 委員 ・渡辺 美津子 委員
・新村 尚 委員 ・遠藤 忠 委員
・阿久津 義正 委員 ・古賀 延繁 委員
・天谷さん(佐藤孝夫委員代理)

(事務局)

・渡辺 竹男 課長
・大豆生田 將 所長
・山根 和夫 副所長
・坂野 忠 指導主事
・狐塚 章一 指導主事

公開

傍聴者の数 0人

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 役員選出 副会長 遠藤 忠 委員

5 議 題

(1) 報告事項

平成16年度事業報告について・・・資料 1

事務局 : 16年度の主催事業は、10種26事業行いました。まず、指導者養成事業です。1の野外活動指導者養成研修会(CONE)は、一般の方対象の16名と宇都宮大学学生対象の15名です。2の冒険活動指導者研修会は、学校の先生方対象で、学校の利用時期に応じて5回に分けて行っています。3の利用者のための研修会は、主に夏休みに利用する一般の団体の方対象で、センターではどんな活動ができるのか、どんな施設があるのか、プログラムの相談などを行っています。24名の参加でした。

次に一般公募事業です。4の家族ふれあいキャンプは家族が対象です。1回目が23家族74名、2回目が7家族25名の参加でし

た。5の冒険キャンプは子ども達が対象で、1回目(4年生~6年生対象)は、例年申込が多く抽選になっています。138名の申し込みがあり77名の参加でした。2回目は66名の申し込みがあり55名の参加でした。6のエンジョイサタデーは、「子どもの居場所作り」ということで土曜日に実施しています。9回で134名の参加でした。7の子どものもりの集いは、活動がしにくくなる12月・3月に、主にクラフトの活動になります。

8からは施設理解利用促進事業になります。子どものもりフェスティバル、全国一斉ウォークデー、冒険活動センターパネル展です。冒険活動センターパネル展は、市役所のホールで行いました。

2ページ3ページは、年間を通して学校の利用がどのように実施されたかが記載されています。学校の利用につきましては、学校利用調整委員会が開かれ、小学校4名・中学校4名、合計8名の校長先生に集まっていたいて、調整をしています。例年ですと11月と1月に開催しています。中学校はテントが使える時期に計画しています。小学校は、冬が中心になってしまいましたが、みなさんのご理解を得て計画しています。学校名の後に書いてある数字は児童生徒数です。

続いて4ページ5ページをご覧ください。センターの利用状況一覧になります。1の利用状況総括表ですが、8年度はセンターの開所が7月になりますので、利用人数等は少なくなっています。また、16年度からフェスティバルの人数が含まれています。フェスティバルの参加人数は概数で1500名で集計しています。

2の月別利用状況では、16年度11月多くなっているのはフェスティバルのためです。年間を通して多いのは、やはり5月と7・8月でした。冬の間は利用者数が少なくなっています。

5ページの3ではどんな団体が利用したかという資料になっています。小学校4年生と中学校1年生の冒険活動での利用が40%を超えています。4の利用日数別利用状況では、1泊での利用と日帰りの利用が70%を占めています。日帰りでは、野外炊飯での利用が多いです。3泊4日の利用は、中学校での利用が主なものになっています。次に宿泊利用率(宿泊延べ人数÷宿泊可能人数×100)です。11月から2月までの利用率があまり下がらないのは、ロッジのみの利用になるためかと思われます。

つづいて6ページをご覧ください。利用者がどこに住んでいるかという資料です。宇都宮市内と市外(県内と県外)に分けてみました。

宇都宮市内からの利用が、団体数で74%・実人数で87%・延べ人数で89%になっています。県内では、鹿沼市や小山市、河内町からの利用が多いです。県外では、センターが高速道路のICから近いためか、埼玉県や千葉県、東京都からの利用が多いです。

会長：16年度の事業報告をしていただきましたが、質問等ありますか。

佐藤八委員：県内の鹿沼市や小山市では、どのような団体の利用が多いのですか？

事務局：子ども会の利用が多いです。その次は家族の利用です。また、鹿沼市では同じような施設を作るという計画があるようです。

佐藤八委員：今後この施設のPRはどのように考えていますか？

事務局：最近ではホームページを見る人が多いので、力を入れています。

平成17年度事業計画について・・・資料 2

事務局：7ページをご覧ください。17年度の主催事業になります。すでに実施した事業については、実数を入れてあります。指導者養成事業では、1の野外活動指導者養成研修会では一般の方の参加者が21名、現在実施中の宇都宮大学学生の参加者が31名になっています。2の冒険活動指導者研修会では、5回のうちすでに3回が終了しました。3の冒険活動指導者実技研修会は、実技を十分に体験してもらおうという趣旨で今年度から新設した研修会です。8月1日に24名の小学校の先生方に参加していただきました。利用者のための研修会は一般の方31名の参加でした。次は一般公募事業です。家族ふれあいキャンプは、1回目が5月に行われ、19家族51名の参加でした。2回目を10月に予定しています。冒険キャンプは7月に1回目を行い、78名の参加者がありました。2回目は、現在実施していますが、57名の参加です。エンジョイサタデーは、今年度回数を増やして4月～2月まで年間12回の実施を予定しています。子どものもりの集いは、12月10日と3月11日に予定しています。施設理解利用促進事業では、11月6日に子どものもりフェスティバルを、全国一斉ウォークデーを10月8日に予定しています。また、冒険活動センターパネル展を2月中旬に予定しています。以上、昨年度より1種増えて11種30事業になります。

8・9ページでは学校利用の予定になります。毎年ローテーションをして、利用時期を調整しています。

10ページでは、さきほどお話にでてきましたエンジョイサタデーの年間予定です。子ども達の居場所作りを目的に、センター職員指導のもと活動を体験してもらおうというものです。

- 会長 : 17年度の事業について報告をしていただきましたが、ご意見などありましたらお願いします。
- 渡辺委員 : 家族ふれあいキャンプ1回目の人数を見ると、家族数や人数が昨年度より減っているようですが、何か理由は考えられますか。
- 事務局 : 昨年度は、持ち込みテントサイトを最大に活用して参加したこと、同じテントを2家族で利用したことなどが考えられます。
- 古賀委員 : 冒険活動指導者実技研修会での参加者の人数・性別・勤務態様などを教えていただきたい。また、修了証などは渡しているのでしょうか。
- 事務局 : 参加者は24名。全員が小学校の教員でした。そのうち男性は3名でした。勤務は出張で参加された方が多かったようです。また、修了証は現在渡していないので、今後検討してみたいと思います。
- 高田委員 : 昨年から2学期制が導入されたわけですが、学校利用の中で配慮された点がありましたら、教えてください。
- 事務局 : 2学期制移行にあたって、10月に秋休みがあるわけです。冒険活動を行うにはとてもいい時期に休みになってしまいました。学校にとっては事前準備がとても大切になっているので、十分な時間をとりたい。そのところがジレンマになってしまいました。そこで、昨年から私たち指導主事が、学校を訪問していっしょに考えようということを始めました。学校のねらいを達成するためにどんな活動が有効かを相談し、お手伝いしようというものです。これからも、学校訪問は大切にしていきたいと考えています。
- 佐藤委員 : 実技指導者研修会では、どのような内容の研修を行っていますか？
- 事務局 : 研修会の申し込み時に、どのような内容の研修を行いたいとお聞きしました。その結果とセンターの方でやっていただきたい活動を考慮し計画を立てました。イニシアティブゲームとネイチャーゲームを中心にし、杉板焼きやおやつ作り、草木染め、ネイチャークラフト、ニュースポーツなどを実施しました。

(2) 協議事項

外部との連携を軸とした冒険活動の推進について・・・資料 3

- 事務局 : よりよい冒険活動の推進ということで、指導に関すること・学校利用に関すること・地域との交流・情報の発信という4本柱で考えてみ

ました。指導に関することでは、指導者養成でCONEとの連携強化を図ることが大切だと思います。さらに、その指導者をリーダーバンクとして登録しおおいに活用していくことを目指しています。今年度8月末現在10団体30名の予定です。さらに、子どもの居場所作りとしてのエンジョイサタデーでの活用です。また、フェスティバルや主催事業等での指導者派遣依頼を各種団体に行っています。さらに指導力向上のために、今年度「日本野外教育学会」に加盟し、情報交換を行っています。各地少年自然の家や社会教育施設との連携を図り、研修会への参加や情報交換を行っています。センターの研修会に各専門施設の講師へ派遣依頼などもしています。

次に、学校利用に関することです。学校との密な連携をとるため、昨年度から事前相談会を実施しています。私たちが学校を訪問したり、学校の先生方がセンターに視察に来たりしています。7月末現在10校の実績がありました。昨年度は10校でした。事業評価の研究については15年度から宇都宮大学との共同研究をしています。活動の前後及び1か月後の変容をアンケート調査(3回)から探っています。定期的に大学と情報交換をし研究しています。さらに、アンケートの項目については、見直しをしようとしています。

地域との交流ということで、主に「篠井地区ゆたかなまちづくり協議会」にお世話になっています。学校利用では、てぶちうどんづくりが活動プログラムになっていますが、16年度は10回382名、17年度は7月までに4回226名が活動しています。主催事業でも冒険キャンプや家族ふれあいキャンプで活動のプログラムに入っています。また、子どももりの集いでは竹のおもちゃ作りで講師を派遣してもらっています。さらに、竹や木材、わら、カブトムシの土などで、地元の方に協力いただいています。カヌーの活動では、揚水組合や地権者の方に堰の管理や場所の提供をいただいています。また、主催事業の野外炊飯の食材やレストランの食材では、地元の生産農家からも提供の協力をいただいています。

最後に情報の発信ということで、ホームページ(一般向け・学校向け)の充実を図っています。また、所報を1000部配付し情報を提供しています。また、市内全小中学校に冒険タイムズをメールで配信しています。他施設のリーフレット等もフェスティバルで配布したり、センター内で回覧及び保管・活用しています。

会 長 : 事務局から外部との連携を軸とした冒険活動の推進という事で話がありましたが、何か質問やご意見などありましたらお願いします。

- 四宮委員 : 今、リーダーバンクについての話がありましたが、どのように活用されていますか。
- 事務局 : 以前は一般利用の方には指導者はつかないということでした。例えば、センターでイニシアティブゲームをやりたいけれども、やり方がわからない。そんなお客さんの要望に答えています。
- 四宮委員 : それでは、他の場所で同じような活動をしたいといった場合、リーダーバンクの活用はできますか。
- 事務局 : 実際、要望はありますが、今の段階ではお断りしています。せっかくいろいろなノウハウを持った人材がいるわけですから、そういった外部からの要請に答えていくことも必要かもしれません。
- 四宮委員 : 現在何人くらい登録されていますか。
- 事務局 : 今年度はまだ登録されていませんが、100名は超えています。
- 会長 : その他何かありますか。
- 高田委員 : 今宇都宮大学の学生が来ているということですが、これは自主的に来ているのかまたは授業の一貫として来ているのかということをお聞きしたいと思います。といいますのは、私が新任の頃ボーイスカウトに関わることがありまして、そのころこんなが経験できればもっとその時のかかわり方が違っていたかなと思います。また、野外教育で得たノウハウというのは学校現場でおおいに役立つ事が多いと思います。大学とのかかわり方などについて教えていただければと思います。
- 遠藤副会長 : これは野外教育という授業で、4泊5日40時間というの集中講義です。今回は31名の参加です。それ以外に大学の方でオリエンテーションを行っています。もう、5・6年こちらでお世話になっております。
- 会長 : その他何かありますか。
- 古賀委員 : その単位は、教職科目とかで必修になっていますか。
- 副会長 : 教職科目の選択必修になっています。また、社会教育主事の取得単位にも含まれています。最初の頃は、夏休みに実施することもあり受講者がなかなか集まらなかったのですが、だんだん学生の間浸透してきて、20~30名ほどになってきました。
- 事務局 : 続いて、今後の課題についてお話しします。指導に関する連携では、CONEリーダーの養成、さらにその活用、また、センター外での指導をどのように進めていくかが課題になっています。地域子ども教室の実施・拡充では、今年度は文科省3年計画の2年目にあたりますので、その後どのように対応していくかが課題になります。また、他施設及び団体との協力や地域との交流、専門機関との交流を今後どう深

めていくかも課題になっています。

最後に情報発信についてですが，ホームページの充実を図ることとPRの推進という事で，所報の活用とメディアの活用を考えています。

よりよい冒険活動事業をめざして・・・資料 4

事務局： 続いて13ページの資料4をご覧ください。これは平成16年度の活動プログラムの集計です。学校利用で，どのような活動がおこなわれたかという集計です。また，別添の緑色の資料ですが，平成17年度（4～6月）一般利用のアンケート集計です。その中の改善してほしいことで，自家用車の乗り入れを許可してほしい。ロッジまでの道がきついという意見が多かったです。車に関しては，必要に応じて許可をしていますし，安全への配慮などの点でお断りしています。園内の階段等に関しては，改善できる点や修理できる点については，早い段階で対応しているつもりです。最後に綴じてある白色の資料ですが，冒険活動が児童・生徒に及ぼす教育効果について，宇都宮大学との共同研究のまとめです。詳しくはお読みいただきたいのですが，小学校4年生では，5つの因子すべてにおいて有意差がみられました。中学校1年生につきましては，4つの因子に有意な向上がみられました。中学校の先生方からは，3泊4日は長すぎるという意見もあるようですが，ぜひ理解を得たいと思います。

会長： 内容盛りだくさんでしたが，何かありましたらお願いいたします。

四宮委員： CONEの研修の中で，実技はもちろんですが，理念的な研修も行っているのですか。

事務局： CONEの方で，どんな内容で研修を行いなさいという計画がだされているので，それに従って計画しています。そのため，理念についての研修も含まれています。

四宮委員： 100名を超えるリーダーバンクの人材ですが，全員をこのセンターで活用することは可能ですか。

事務局： 全員が同時にということはありません。また，センターを離れて時間が経ってしまったという場合もあります。できる範囲での協力をお願いしています。

四宮委員： たくさんの人材がいるので，もっと外に門戸を開いたらどうでしょう。そして，そういった人が増えることで，それぞれの地域で活躍する人材が豊富になっていくと思います。研修も充実していくのではないのでしょうか。

大豆生田所長： ただいまのご意見ごもっともですが，その100名の中には，3日

間だけ研修を受けた人もいれば、センターに3年4年勤めた人もいます。また、このセンターをフィールドにして活動する場合と他の場所では勝手が違います。その辺のことを考慮した上で、少しずつ外部にも出られるようになればと考えます。

遠藤委員 : この冒険活動は、学校行事になるわけで、いわばとても楽しみにしている活動になると思います。学校になかなか足が向かない子ども達も、行ってみようかというきっかけになることが多いのではないのでしょうか。学校側も、ただ単にその日程をこなすのではなく、その準備期間に期待感を持たせるための指導が大切になってくるのではないのでしょうか。センターで過ごす期間だけ自然に触れるのではなく、その前からいかに期待感を持たせるか、そういったことにも力を入れるべきではないのでしょうか。

大豆生田所長 : さきほど話に出ました事前相談会の中で、学校の願い・思いをどういった形で実現するように組み立てていくかが非常に大切になってくると思います。子ども達が学校へ戻った後どう変わっていくか、そんなことに関わってくるのが私たちの専門性になってくると思います。施設の管理だけなら民間委託でもやっていけるでしょうが、そうはいきません。

古賀委員 : さきほど話にあった実技研修会ですが、これからもどんどん充実させていってほしいと思います。

新村委員 : 最近では、野外教育施設が多くできていますが、ここが「冒険」と名付けられたことには、一つの理念があると思います。小中学生が宿泊して教育活動を行うということで、今まで自分が経験していなかった事をやるのが「冒険」だと思います。いろいろな経験が少ない今の子ども達にとって、どんなことが足りないのか、また、その適時性を考えた指導を考えていくことが大切になってくると思います。

会 長 : 話が本質的にものになっていきているようですが、他にご意見はありますか。

高田委員 : 学校としては、やはりここにお客さんで来るのではなく、主体的に行動できるようにしたいと思います。そのために、事前の準備がとても大切になってくると思います。ここに来て何をやるんだろっではなく、ここでこんなことをしたいという夢を持って、自分たちで施設を活用できるといいと思います。また、予算の関係もあると思いますが、ここで長期間の活動をするというのは、非常に大切になってくると思います。私も以前ボーイスカウトに関わったときに、1週間ぐらい活動したことがあります。子ども達を見ますと、本当に見違えるほど変

わっていました。それを目の当たりにしますと、やはりできるだけ長期間に渡って実施できるといいと思います。最低でも現状維持をしていただければと思います。

会 長 : 3泊が長いか短いかがということが問われますと、やはり長いという意見がでてくるのでしょうか。小学校で1泊、中学校で3泊、合わせて4泊。体験によって学ぶというのは、一過性ではなく、継続的になっていくと子ども達の成長にいいのではないのでしょうか。

渡辺委員 : わたしも子ども会の活動とかに関わって、宿泊の研修に行くのですが、指導者としては自分たちでプログラムを考えながら計画を立てることが多いです。ここには、素晴らしい自然とスタッフがいます。先生方はそのことに甘えている部分もあるのかなという気持ちもあります。子ども達には一つでも多くの体験を積んでもらいたいという気持ちです。先生方には自然とスタッフ、施設に甘んじることなく、自分たちで主体的に計画を立てて欲しいなと思います。

会 長 : 貴重なご意見ありがとうございました。その他何かありますか。事務局の方でありますか。

事務局 : 本日、冒険キャンプ を実施しております。その中で、田川でのチャレンジハイクとカヌーの活動をぜひご覧いただきたいと思います。

6 冒険キャンプ視察

7 閉 会